

NPO法人かながわ環境カウンセラー協議

KECA ニュース NO. 45

2011年(平成23年)8月27日 発行

巻頭言

一人ひとりがお客様（受益者）サービスの棚卸しを！

理事長 木村信幸

2010年度は例年になく忙しい年でした。環境カウンセラーとして受益者サービスに徹して汗を流したのであればその忙しさも心地よいものになったことでしょうか。どちらかと言えば後ろ向きの事案にかなりの時間を費やさざるを得なくなり、会員の皆さんにご迷惑をかける結果になったのは不本意の極みです。事務局の失態を、なり手のいない理事長に就任することで責任を取った格好になりましたが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

さて、2011年度の事業計画は、5月21日に開催された第15回KECA通常総会で議決されたとおりですが、事業活動方針にあるとおり、NPO法人の基本に立ち返ると共に、定款に定める目的を達成するため4つの施策を掲げております。即ち、活力ある支部活動・委員会活動の実現、仲間作りと人材の育成、財政基盤の確立、コミュニケーションと情報の開示です。

これらの詳細は総会資料に譲りますが、取り分けに関連して私達の活動の基本にあるのはお客様である受益者へのサービスでありその向上です。それなくして環境カウンセラーが存在する価値はありません。そして一人で活動するより志を同じくする仲間と一緒に活動した方が、より効率的で大きな成果が得られるケースが多いのは言うまでもないことです。

そのためには、私達一人ひとりがどういう受益者にどんなサービスができるのか、自分自身の棚卸しをしておく必要があります。場合によっては、仲間である会員が受益者になることも当然あるでしょう。受益者をはっきりさせるようなサービスであってはならないと思います。サービス向上のためにこそ力量を磨く必要があるでしょうし、そのための努力も欠かせません。かつて長嶋茂雄元監督は、「お客さんに評価される自分の野球のスタイルを自分でつくることだ」と言いました。まさに正鵠を射ていると思います。

今年度計画された活動に今やたけなわの支部や委員会も多いと思います。全ての活動にこう言った心構えで臨めば、気持ちの良い汗が流せるのではないのでしょうか。

支部活動報告

支部活動総括

担当副理事長 高橋 弘二

支部活動は、地域に根差した地道な市民活動が中心であり、それぞれの地方自治体が進める環境政策、環境教育、普及・啓発活動への参画・協働が期待される。

環境教育委員会が実施した厚木市立小学校の環境学習出前授業（県新エネ省エネ学校派遣事業）において、委員会からの依頼で県央支部の全面的な協力によって実施された。また、7月下旬海老名市において開催のサマースクールでは市内5小学校において「電気コツコツ作戦（ケチケチの節電の行動）」を環境教育委員会（岡本、嶋田）の指導、支部会員など9名の協力で実施した。これは支部会員のこれまでの行政とのコンタクトの結果が認められて実現に至ったもので、環境教育・環境学習に限らず「行政への日頃からのコンタクト」、「KECA委員会活動を開催場所の地元支部と協働で実施」する支部活動が活発に行われることが期待される。

横須賀三浦支部

支部長 高橋弘二

1. 支部集会：休会中

2. 市民活動

“すかっ子セミナー2011”開催、5月14日（土）オリエンテーション

5～10月、月1回土曜日三浦半島各地で開催、4コース42名（延べ）が参加

7月16日、横須賀ECO大賞の副賞として、横須賀市長が活動現場視察（参加）

県道久里浜田浦線建設に伴うトウキョウサンショウウオの保護活動

7月8日、県横須賀土木事務所飼育トウキョウサンショウウオ幼体の放流立会い

3. 環境教育

6月29日（水）横須賀市立望洋小学校3年生3クラス、「学校ビオトープについて」出前授業（室内お話とビオトープでの解説）

7月31日（日）自然ふれあい楽校・サマースクール2011（湘南国際村センター）において、主として地域で市民活動を行っている人を対象に「環境カウンセラー養成支援講座」を実施する。

横浜支部活動報告

支部長 原 洋夫

2011年度第一4半期における横浜支部の活動を報告します。

1. 支部長継続の件

今年度は、支部長交代の期であった。あまり貢献するところがなく新人により活性化された支部活動を期待したが立候補なく、引き続き原が担当することとなった。残念。

2. 支部会議の開催：

原則毎月第4木曜日午後18時30分から場所は横浜市移民活動支援センター（桜木町）で開催している。今年度は4月28日、5月26日、6月23日、7月28日である。出席者数は15人から20人の間である。支部会員数は52人なので1/3の出席率となる。なお3月は東日本大進震災のあとで会場が閉鎖して開催できなかった。

3. 2011年度横浜支部事業活動進捗状況

今年度は4つの部会を構成しそれぞれにリーダーを置いて、年間計画を立てて活動することとしている。部会とリーダーは以下である。

横浜市環境月間参加（大野リーダー）、EA21普及活動（村井リーダー）、市民活動参加（大竹リーダー）、自己啓発企画（石黒、樋口リーダー）

今年は震災のため、環境月間活動が延期された（秋ごろの見込み）。他の部会の実行計画も7月支部会議で発表のすることになっている。

湘南支部

支部長 西村堅一郎

毎月最終金曜日の午後6時30分から「藤沢市民活動推進センター」で定例的な集会・会議を開催しています。理事会等の報告、また支部各会員の活動と支部活動について意見を交換しています。3月は大地震のため、施設が使えないため中止しましたが、4月、5月、6月と実施しました。

推進センターの会合の後、藤沢駅近くの中華料理のチェーン店で2次会を開催しています。リーズナブルな値段で、楽しく語らいをしています。

従来ならば、6月、7月に藤沢、茅ヶ崎共に環境フェアを実施し、その報告を行うところであるが、今年から開催時期と開催場所も変更されました。

「ふじさわ環境フェア2011」は12月11日（日）湘南台文化センターで開催されることになりました。

そこで、2次会で話題提供しようと思っている太陽光発電について述べます。6月末に我が家の屋根に太陽光発電パネルが取り付けられ、発電を開始しました。大地震の後、すぐにインターネットで調査し、地元の業者を当たり、1kW当たり50万円を目安に見積もりを取り、業者を決定しました。S社の太陽光パネルがkW当たりの価格が低いことが判りまし

た。最大発電能力3.58kWでパネル、パワーコンディショナー、工事費込みで176万円でした。1kW当たり50万円を少し切った値段となっています。設置補助金は国が172千円弱、県と藤沢市が合わせて172千円と約20%が返還されます。

寄せ棟屋根のため効率が悪いと思っていたのですが、約1ヶ月の使用最大出力は3kW近くまで上がり、1日の発電量は最大20kWh程度です。想定内でした。また、おかしなもので、電力使用状況も監視できるので、昼間の電力はほとんど使わない状況になっています。発電した電力の買取価格は42円/kWhですので、1ヶ月1万円以上の収入を見込んでいます。

県央支部活報告

支部長 古川 輝夫

県央支部では去る6月26日に定例会議が開催されました。出席者は8名
会議に先立ち、新しく会員になりました「上野潤一」さんから自己紹介がありました。
当支部の会員数は17名となりました。支部活動について以下の通り再度確認いたしました。

1. 定例支部会議

開催月・日	時間	場所	講話担当者
6 / 26 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	今回なし
8 / 21 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	上野
9 / 18 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	未定
10 / 9 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	未定
12 / 4 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	未定
2 / 26 (日)	17.00 ~ 19.00	えびな市民活動センター	未定

- ・ 定例支部会議は原則的に2ヶ月に1回開催する。
- ・ 毎回の定例支部会議では連絡事項、情報交換の他に30分の講話を各担当者が行う。
- ・ 12月4日は忘年会を行う。

2. モデル事業所の視察研修会 担当責任者 高橋(信)

定例支部会議が開催されない11月、1月に次の候補として計画する。

- ・ 三菱重工金沢工場(風車、タービンなど)
- ・ 相模原宇宙開発研究所(宇宙ロケット研究)
- ・ 宮ヶ瀬ダム、愛川自然公園、平塚市民公園(自然探索)

3. 自然観察の勉強会

項目	日程	場所	担当
樹木の勉強会	6 / 5 (日)	県自然保護センター	原田

4. 環境展等への出展

項目	日程	場所	担当
綾瀬市環境展	10 / 22 (土) ~ 23 (日)	綾瀬市市役所	高山

5. 海老名市サマースクール

項目	日程	場所	担当
えびなっ子サマースクール 電気コソコソ作戦	7 / 21 (木) ~ 29 日	海老名市立小学校 5 校	守谷

担当者は守谷、高橋、古川の他 7/21、上野、7/22、上野、7/26、原田、7/29、高山

6. 行政・商工会訪問

下記の関係市、商工会を各担当が訪問し、情報交換と EA21 等支援活動を行う。

大和市、綾瀬市：菅田、高山 海老名市：高橋、上野、厚木市：守谷、原田、上野、伊勢原市：古川、岩淵、愛川町：野口 座間市：渡邊



海老名小学校の電気コソコソ作戦

7. 7月22日伊勢原市主催のEA21普及セミナーに古川、守谷が支援協力する。

*この時点では樹木の勉強会は無かったが、別添の報告を世話役の原田さんから報告します。

県央・樹木勉強会実施報告

世話人：原田勝征

県央支部では6月5日、神奈川県立自然環境保全センター（厚木市七沢）で樹木勉強会を実施しました。県央以外のKECAメンバーや一般の方を含め、13名が参加しました。

勉強会の内容:今回は専門家に教えてもらうのではなく、「葉っぱで調べる身近な樹木図鑑(林将之著)」を用意してもらい、この本を使って樹木の名前を調べる方法を学習しました。図鑑には葉っぱの形、大きさ、色などから名前を調べる「検索表」があり、検索表に照らして名

前を調べます。また、2人一組で、調べのついた名前をリストに書き出し、その数を競う競技も行いました。

実施状況：晴天に恵まれ、新緑の香るマイナスイオンいっぱいの中、2時間以上かけて「調査」に専念しました。センターには約600種の樹木が植えられているそうです。ケヤキ、カツラ、ニセアカシア、キハダ、ブナ、カクレミノ、ハクウンボク、アメリカフウ、メタセコイヤ、トチノキ、オニグルミ、キブシ、シラカシ、…。今まで「雑木」と片付けていた木も名前が確認できます。競技の結果は、一般参加の酒井夫妻が80種以上を調べ上げトップとなりました。これらの結果は続く「反省会」で大いに反省され、盛り上がりました。

自然に親しむには、樹木や野草、鳥や昆虫などの名前を知ることが入り口です。

今回の勉強会は「一人で名前が調べられる方法」として有効であったと思います。見知らぬ鳥や野草を見て名前を調べるのはとても苦労します。これらにも同様な方法はないものでしょうか。

西湘支部の運営

小林嘉博

1. 内部コミュニケーション

支部長が理事会、運営委員会などの状況の報告を行うとともに各支部会員の状況報告を行うことで支部会員相互の情報を交換する。支部例会は、隔月の開催を目安とし、議事録（メモ程度）は、西湘支部の全会員に配信して内部コミュニケーションを進めます。

2. 地域の自然観察（さわやかハイキング）

西湘支部のロケーションは、丹沢山地・箱根山地・湘南海岸など屈指の恵まれた自然に恵まれています。これらの自然や景観も常に変化し続けることが避けられません。KECA会員や関係のある人々には、この地方の植物・野鳥・地質・歴史などに関して深い造詣をお持ちの専門家が多数いらっしゃいます。これらの専門家の先生方の解説を得て、自然観察のハイキングを継続して実施したいと考えています。広く、KECA会員、ご近所の市民や会員のご家族の参加を歓迎しています。

3. エコアクション21

環境管理委員会からの「エコアクション21」のコンサルタントの候補者の推薦の依頼に適切に応えることのできるように入材の育成の支援をしたいと考えています。具体的には、エコアクション21の導入指導のコンサル対象企業及び担当コンサルタントの了解が得られた場合にオブザーバー参加を斡旋したいと考えています。

同上のケースで、「審査人」の育成を進めたいと考えています。とくに、「産業廃棄物事業者」の審査が可能な審査人が手薄である状況の改善が必要です。

委員会活動報告

委員会活動総括

小林嘉博

1. KECA事業活動の根幹

KECA経営の大黒柱が、適切な「管理」業務と強い「事業」活動の推進であることは、間違いのないことであると思います。必ずしも適切な表現であるとは思われませんが、「経常収入／経常支出」が計画され、「経常収入 経常支出」が維持され続けられる必要があります。

現状は、各委員会のご努力にも拘わらず（残念ながら）「経常収入＞経常支出」を達成しているのは環境管理委員会のみです。近い将来、他の委員会が有効に離陸できるようにしなければなりません。NPO法人と云えども、組織維持の観点から健全なる収支状況の維持が欠かせません。KECA全体の経常収支の状況は、かなりの赤字予算及び赤字決算が続いています。ボランティア活動等を支援することができるように各委員会は、収入増に努めましょう。

2. 環境管理委員会

環境省が策定している「エコアクション21」の認証取得のためのコンサルティング業務の拡大に特化した活動を進めています。神奈川県中小企業団体中央会等との連携を密に保ったコンサルティング業務のブラッシュアップに継続して取り組みます。

さらに、自治体等との連携で集団的な「エコアクション21」の認証取得の指導案件の充実、拡大が期待されます。

なお、コンサルティング契約の締結から2カ年の以上の期間が経過して指導が継続している案件の見極めに留意する必要があると考えられます。指導を継続する場合は、新しく、2004年版のガイドラインから2009年版のガイドラインに対応した内容への切り替えが必要となります。

3. 環境教育委員会

環境保全活動の基礎的なポテンシャルを高めるための教育・啓発活動を実施しています。教育の対象者は、小中学生から学生、社会人まで多岐にわたっています。

出前教育、セミナー開催などの方法で環境に関する初級的な啓発や、環境に関する一定の資格を与えるための無料、有料の講座（エコ検定等）を設定しての教育を行っています。

環境教育事業は、KECAの背骨にあたる極めて重要な事業であり、次代を担うべき位置づけにあります。

4. エネルギー委員会・3R LCA委員会・化学物質委員会

これらの委員会は、間口が明確に絞り込まれていて、奥行きが極めて深い専門性家の集団です。例えば、今次の大震災に端を発した節電対策などその力量が遺憾なく発揮されるべきであると思われます。高まりつつある社会的なニーズの掘り起こしで専門家の力が生かされ、KECAの事業の主要な柱として大きく飛躍することを期待します。

環境教育委員会

委員長 高橋弘二

(i) 活動報告

横浜ボーイスカウト環境教育

6月4日(土)、横浜市瀬谷区中屋敷地区センターで、ボーイスカウト(小学2~4年生)12名を対象に「生物多様性と絶滅危惧種」について実施(岡本、嶋田)

神奈川県新エネ省エネ学校派遣事業

7月7日(木)、8日(金)、厚木市立清水小学校で5年生4クラス(140人)の環境学習出前授業(ごみと3R、ごみ減らしの裏ワザ)を、両日とも県央支部から3名(古川、高橋(信)、守谷)の協力を得て実施した(嶋田)。



清水小・はじめてふろしき包みを体験

海老名市立小学校サマースクール

7月21~29日の5日間、市立小学校3~6年生(1学校36~42名)対象のサマースクール(2時間)を県央支部の要請・協力(8名他1名)により実施した(岡本、嶋田)。

(ii) 今後(年内)の予定

7月31日(日)、環境カウンセラー養成支援講座(湘南国際村センター)、横須賀三浦支部に協力

10月8日(土)、総合研修会を横須賀市自然・人文博物館天神島臨海自然教育園で開催

環境教育インストラクター養成セミナー:11~12月開催で計画

昨年度受講者を対象にした交流・情報交換会(サロン)の開催:11月

環境教育指導者登録リストの更新、新規登録者を増やす

(iii) 課題

ECU関連事業の所管について(エコ検定受験対策講座・緑化エコリーダー)

化学物質委員会

委員長：近藤勝養、
副委員長：中山育美

化学物質委員会は、市民・事業者・行政を結ぶリスクコミュニケーション（活動プログラム名『環境ダイアログ』）を活動の中心におき、それを補完する活動としてPRTRデータの解析結果等のWebでの公開をすすめてきました。2011年度は、活動の原点に戻り、委員数の増加を図り、『環境ダイアログ』、PRTRデータの解析結果や新しい取り組みの議論をしていく予定です。

2ヶ月に1回、18：30よりかながわ県民サポートセンターにて委員会を開催します。多数の会員の参加を期待しています。

エネルギー委員会活動報告

委員長 加藤幸男（川崎支部）

2011年度として、エネルギー委員会の活動方針を報告します。
まず、委員長が西村堅一郎さんから私に交代し、同時に副委員長は、村井哲郎さんでスタートします。

新年度の活動方針は、KECA総会議案書の委員会方針に記載済みのため詳細は割愛致しますが、全般的には、3.11大震災の後では、省エネがより重要視されてきました。今年度は、省エネの実践とエネルギー政策（政府、県、市とは、別途なもの）を考えて提案してみたいと思います。

さてこの度、幸先よくKECA事務所を通して(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構より2011年度全国代表者会議での講演を依頼され受諾しました。今回は、この活動をご報告致します。

日時 2011年7月7日

テーマ「オフィスの省エネによるCO2削減」、講師 KECAエネルギー委員長 加藤幸男
機構は、全国に9支社あり、本社は、馬車道なのでKECAのごく近くです。

本社は、27階建の24から27FLにテナントとして入っています。全国の支社も同様です。機構の詳細と環境・CO2削減、技術開発等への取組みは、「環境報告書」をご参照下さい。

今回は、13時30分から17時00分まで機構の全日程に参加しました。
かなり活発に意見交換があり、私にも鋭い質問がありました。

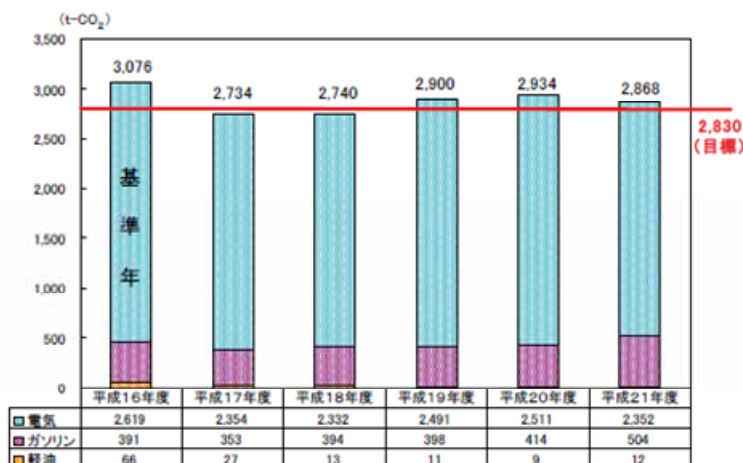
(独)鉄道・運輸機構殿(以下、「機構」とさせていただきます)

1) 地球温暖化対策に関する「機構」の目標

オフィス活動により排出される二酸化炭素(CO₂)については、平成22年度から24年度における3ヶ年の平均値を平成16年度実績の8%減とする。

左図によると平成21年度は、平成16年度比6.8%減となりましたが、平成22年度以降は算定の期間に入りますので、これまで以上の取組み推進が望まれます。

「機構」平成22年度環境報告書による。



3

KECA 有志による福島研修会の記録

事務局 (企画) 植村國男

行先：福島県福島市、南相馬市

日程：2011年8月10日(水) 7:30 出発～11日(木) 19:30 帰着

参加者：かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA) 会員有志 12人

交通：横バス観光株式会社 (中型バスチャーター)

8月10日(水)

7:10～12:00

横浜西口天理ビル集合 - 福島西ICへ

参加者：木村信幸、河野健三、高橋弘二、近藤、原圃、太田、大竹、先崎、福田、山田、守谷、植村、参加者自己紹介と、被災地見学に関する意見交換を行った。

12:00～14:30

福島西ICから飯館村経由で南相馬市へ移動。福島環境カウンセラー協会の4名同乗(樽井副会長、片平副会長、鈴木事務局長、佐久間理事)南相馬市付近の放射能データなど提供

される。飯館村近辺は自然風景明媚であるが畜産農家宅その他施設に人気なし。警察車両がパトロールしている。田んぼにイネはなく雑草がしげっている。

14:30～15:30

「道の駅南相馬」にて福島環境カウンセラー協会長澤会長同乗、津波被害の海岸3KM範囲の見学。破壊された集落、畑地にうちあげられた漁船、倒されて凶器に変わった防風松林、倒れた鉄塔と送電線、畑地は海水をかぶっているのが当面耕作不可とみられる。

15:30～17:00

「道の駅南相馬」の集会所にて被災された4人の方から（長澤会長のお奨めです）体験談を聴く。

20KM圏内におられた民生委員の女性～当日津波から避難できたが翌日放射能問題から別の避難所への移動を余議なくされた。この200人の避難所で4ヶ月間自炊作業を支援してきた。いまは仮設住宅にうつった。

水稻15ha、ブロッコリー13ha、野菜の苗70～80万本など農業経営、8人家族、男性～おくさま、子どもさんを津波でなくされ、2トン車でとりあえず東京の娘の家へ行った。支援物資を車に満載して地元へ引き返した。仕事をしなければならぬので大型免許取得のために何ヶ月か通った。工面してひまわりの種子を入手して育てている。

民生委員で理容師の女性～夫とともに避難所にて髪を切って喜こんでくれる人たちへの対応が生きがいである。

17:00～19:30

宿泊所土湯温泉「山水荘」へ移動

20:00～21:30

福島環境カウンセラー協会長澤会長を囲んでの夕食・懇談会、その後、部屋で明日避難所訪問のための準備。（テーブルクロスにKECAメッセージを書く）



8月11日(木)

9:00～9:30

宿泊所「山水荘」から（複合施設）「コラッセふくしま」へ移動。

9:30～12:15

福島環境カウンセラー協会の4名と懇談（長澤会長、樽井副会長、片平副会長、佐久間理事）。佐久間理事より震災の概略のレビューならびに竹トンボとお守りを用意して避難所との交流についての福島環境カウンセラー協会の活動の経過説明 竹のエネルギーとしての効用、海岸保安効用についての活用 福島環境カウンセラー協会とはじめての交流の機会としてKECAの活動内容について伝えて質疑する。（11:45～12:15 昼食）

12:15～13:00

避難所「あずま総合運動公園内体育館」へ移動。

13:00～14:30

福島環境カウンセラー協会が行う「メンタルケア活動」に参加。同避難所は現在名簿上300名であるが盆の時期に実在数は100余とみられる。当避難所は震災直後は1000人を越すテントがあった。10月には閉鎖される予定である

(1) 福島環境カウンセラー協会は震災後、大小の避難所への訪問を行っている。その手段として幸せの黄色い竹トンボに励ましのメッセージを書き込んでおいて現場で手渡して思いをひとつにすることもしてきた。今回もKECAの訪問に合わせて竹トンボを準備してくれてそれを配った。ただし長澤会長や佐久間さんは小道具があってもなくても避難所で顔を合わす誰とでもお話を聞いてあげることができるのです。



避難所「あずま総合運動公園内体育館」

(2) KECAの訪問の準備としてテーブルクロスに参加者12名全員で復興の励ましメッセージを書き込み持ち込んだ。「一日も早く復興するようにいっしょにがんばりましょう」「震災を機会に日本は大変革し皆で協力しあいながら素晴らしい日本を創りましょう」「あなたのいたみはわたしのいたみ、あなたの悲しみはわたしの悲しみ、あなたのよろこびは私の喜び」など。避難所の担当者は後で壁に掲示してくれるそうです。

(3) お土産に用意した神奈川のお菓子「鳩サプレー」を配布した。当初、本人以外の家族分も含めて配布したためアナウンス後の短い時間で全部配り終えることができ大変好評であった。このような場合の配付方法は小出しにする等検討を要する。

(4) 高橋弘二様が用意した二宮金次郎の「大飢饉から人々を救え！」が大変好評でした。小さい子供とお年寄りに対して面目躍如に思われました。

14:30～19:30

帰路につく。車中反省会にて今回見聞したことをできるだけ多くの方々にお伝えしたいということになり、今回の福島訪問についてあらためて参加者の体験談を集めてKECAニュースとは別に特集報告をする予定です。

2011年度年会費納入のお願い

KECAの活動は会員の皆様の会費で運営されています。
 まだ本年度の会費を納められていない方は至急お振り込みください。
 年会費の振込先はゆうちょ銀行の口座番号：00260-9-24711です。
 ゆうちょ銀行窓口にある青色の振込用紙をご使用願います。

H23年度「かながわ節電モデルプロジェクト事業」に参加

嶋田和夫

環境省は全国の地球温暖化防止活動推進センターに呼び掛けて、地域で地球温暖化防止に様々な活動を実践しているNPO団体と連携して、コンソーシアム（共同事業体）を構築しCO2削減活動を展開することを推進している。かながわアジェンダ推進センターでもこの動きにこたえて県内で活動しているNPOと連携して「かながわ節電モデルプロジェクト事業」を計画しKECAもこのコンソ - シアムに参画することになった。事業の概要とNPO・KECA及びKECA会員の役割を以下に記します。

1) 事業の概要

神奈川版「節電（省エネ）チャレンジシート」を作成して各家庭に配布し節電への取り組みを勧める。

「節電チャレンジ」への取り組み家庭数は、モデル地区1200世帯、コンソーシアム・一般1800世帯、合計3000世帯を目標とする。

推進役である「節電アドバイザー」を神奈川県地球温暖化防止活動推進員の方々とコンソーシアム構成団体会員の中から選任する（全体で約50名）

アドバイザーの派遣活動は、夏期7, 8, 9月 冬期11, 12, 1月の2シーズンとする。

今夏の節電活動で、対昨年同月比15%の電力削減を目指す。

（電気量のお知らせ結果の記載値）

2) KECAの役割

KECAではエネルギー委員会が担当し、連絡窓口には嶋田和夫（監事）が当たります。支部担当の「節電アドバイザー」としては川崎支部：加藤さん、近藤さん、横浜支部：原支部長、

湘南支部：西村支部長、嶋田、県央支部：守谷さん、相模原支部：福田支部長と植村さん、が登録されています

KECAの仕事としてはこのチャレンジシートを配布し、回収とデータを管理します。チャレンジシートは7月から配布を始め9月末～10月はじめに回収しアドバイザーと嶋田が集計します。

KECA用としてチャレンジシート150枚を確保し 嶋田とアドバイザーが管理しておりKECA 事務所にはいつも置いてあります。

KECA会員は自分用のチャレンジシートを管理すると同時に近隣の個人宅、または町内会、自治会、グループなどにとどけて協力要請します。

会員の御自宅でも1枚、その他の4枚を知人宅などで 1単位5枚でまとめることが望まれます。

(かながわ節電モデルプロジェクト事業なので県外の住人はいません)

各配布先などをお願いすることはアンケートの記入と7～9月まで3ヶ月間の電気使用量調査です。

電力使用の領収書には昨年同月の使用量の記載があるのでこれも転記します

チェックシートに記載する個人名もグループ名も実名でなくニックネームでもかまいません

15% カット
毎月の電気使用量の削減目標

節電チャレンジシート

日頃のくらしを見直す

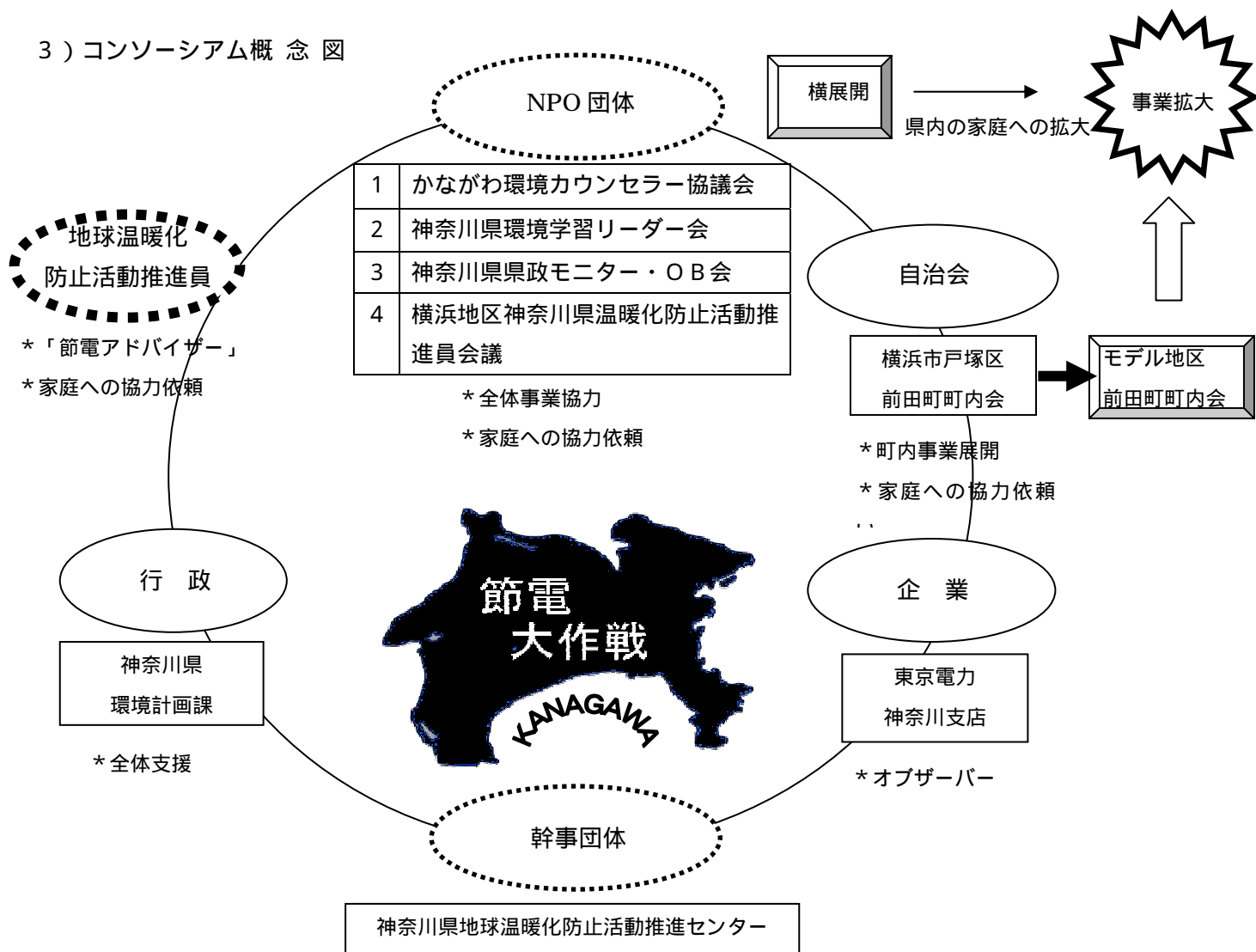
これを契機に積極的に取り組もう!

項目	内容	削減率	削減効果
エアコン	設定温度は夏は26度、冬は20度	10%	約10%
冷蔵庫	扉を開けっぱなしにしない	5%	約5%
照明器具	不要な灯は消す	5%	約5%
テレビ	電源をオフにする	5%	約5%
温水洗浄便座	温水を必要最小限に抑える	5%	約5%
電気ポット	沸かしたお湯をこまめに使う	5%	約5%
パソコン	電源をオフにする	5%	約5%
待機電力	不要な家電のコンセントを抜く	5%	約5%
省エネタイプ	省エネ家電に買い替える	5%	約5%
アンペア	必要最小限のアンペアで契約する	5%	約5%
一貫出給	必要最小限の給水量で洗濯する	5%	約5%
丹念	洗濯物をよく洗ってすすぐ	5%	約5%
ソーラークラウド	ソーラークラウドの導入を検討する	5%	約5%

電気使用量の記録表 (1ヶ月分)

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
使用量 (kWh)																																

3) コンソーシアム概念図



会員の投稿

東日本大震災と東電福島第一原発事故から思うこと

KECA 湘南支部 小山 稔

東日本大震災と福島原発事故で被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

今年 2011 年は、世界中がまさに激動と転換の年になるように思われます。

3月11日のマグニチュード9.0という大地震とともに大津波が東北太平洋沿岸地域を襲った東日本大震災は、自然災害の恐ろしさと同時に人間が自然災害をコントロールできることの限界を強く感じさせるものでした。

先般、津波の被災を受けた故郷気仙沼市や陸前高田市を訪問、見舞いに行ってきました。幸いに、親族はみな無事でしたが、大津波の被災状況は、連日マスメディアで報道された以上に、現地に行って受けた印象はまさに強烈で想像を絶するものでした。

今回の訪問は、震災後ちょうど100日目でしたが、姉夫婦の話では、震災発生直後は全てのライフラインが停止し、住民はお互いに手持ちの食材や燃料を持ち寄り、飢えと寒さを凌いだようです。現在も友人の家の一階は全くのガランドウの状態に放置され、街の到る所に瓦礫が積み上げてあり、いまだに遺体の捜査が続き、街中に「くさや」のような異様な臭いが立ち込めていました。

たまたま友人（元気仙沼市環境衛生部長）に聞いた話では、廃棄された冷凍水産物に大量のクロバエが発生して、その駆除が大変だと嘆いていました。下水道は処理場が冠水し地下配管の破損やつまりなどでトイレの使用も制限されていました。復旧にはまだまだ相当の時間がかかると思いました。

この自然災害に端を発した東電福島第一原発事故は、東京電力の事故発生後の情報隠しや安全神話に集約される原発事故に対する電力業界や関係政府機関の過信と事故収拾対策の準備欠如から起こった人災ともいわれ、度重なるトラブルでいまだ事故収束の目途も立たないまま、地域住民は理不尽な避難生活を強いられるとともに、野菜、魚、肉などの農水産物の実被害や風評被害など、多くの人々は放射線汚染とその被害への不安など、暮らしや健康にいまなお暗い影を落としています。

福島第一原発事故を契機に、ドイツ、スイスやイタリアなどのように国のエネルギー政策として原発の廃止を決めた国もあります。わが国では、菅総理の浜岡原発の運転再開停止指示の後、九州電力の定期点検を終えた佐賀玄海原発の運転再開をめぐる、電力会社の情報操作（やらせ）などの不適切行為が明らかになり、原発の安全性への不信任感が払拭されないどころかますます高まる状況にある中、政府は原発運転再開にあたりストレステスト（耐性検査）



の実施を指示、当面は原発の運転再開はないものと思われま

大津波で山際まで打ち上げられた漁船

す。電力供給能力不足が懸念されるため、7月から産業界では工場稼働日の変更や作業場の照明や空調機の運転制御などによる節電対策が採られ、業務部門や家庭部門でも同じような節電対策への取組みが行なわれており、この電力不足を切り抜けようと猛暑の中で、国民は熱中症の不安を抱きながらも懸命に努力をしています。

今こそ、わが国も、長期エネルギー政策について、エネルギー資源、再生可能な新エネルギーの技術開発などについて経済性、安全性、持続性などを多面的に抜本的に見直すべき時だと思います。これまでのような一時的意図的な運転コスト比較だけでなく、事故や災害さらに長期にわたる廃棄物処理費用の負担や国土の特異性（火山国、地震国など）にも注視した

持続可能で安全な国民生活を実現できるようなエネルギー対策について、真摯で透明性の高い議論が行なわれることを期待します。

「神奈川県環境保全協議会第30回総会記念講演を聴講」(報告)

湘南支部 小山 稔

5月25日に開催された下記のテーマの講演(KECA後援)を聴講しました。その概要について報告します。

「環境革命時代の都市や“まち”を考える」～生物多様性の観点から～

講師：涌井 史郎氏 東京都市大学教授・桐蔭横浜大学客員教授
COP10 地球生きもの委員会 委員長代理

1. 日 時： 2011年5月25日 15:45～17:00

2. 場 所： 県民共済未来ホール(横浜桜木町)

3. 講演の概要(キーワードから)

(1) 持続可能な開発と生態系サービスについて

1992年に開催された地球環境サミットで気候変動枠組み条約と生物多様性条約が制定され、生物多様性条約、気候変動枠組み条約が参加国によって順次締結された。

地球誕生から永い年月をかけて形成された生態系システムのサービスが、産業革命以降の短時間に失われ、地下資源はあと30年～50年ぐらいでピークを迎える。

生態系サービスの先端技術への応用例として、バイオミクリーがある(例、ハスの葉の撥水性など)。自然の恵みである生態系サービスを持続して享受するためには、生物多様性とその循環(食物連鎖)のバランスを保つことが大切である。生態系サービスの経済的効果は、国連ミレニアム白書によれば30兆円に達する。

(2) 環境革命時代とCOP10(MOP5)の成果

環境革命は「資源は有限と資源再生」を基本とする考え方であり、自然を資本財として捉えている。COP10では、遺伝資源の利活用について先進国と開発途上国の間の利害対立があったが、環境省ほか関係者の努力で、生物多様性10年計画目標や懸案の遺伝資源の取扱いなどが愛知ターゲットや名古屋議定書として締結された。

その背景には地球は生命体であり、システムとして機能する生物多様性を大事にするという考え方や、土地は単なるスペースではなく資源であるという考え方が生まれつつあることがある。ビジネスの面でも、「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」が策定され、有限な生物資源を経済的な財産と考えるようになってきた。

(3) 3つのE(Economy、Energy、Environment)と都市づくり

これまでは、都市を自然から分離して経済生産の場と位置づけてきたが、これからは昔の「自然の入れ子構造」のような生態環境都市を目指し、生態系サービスの最大化を目指すべきである。そのために水田のダム機能など脅威を「いなす」知恵や伝統の匠の技を生かす必要がある。緑化の推進や自然の復元を図り、農地と河川の一体的な利活用によって生物多様性を確保することも大切である。

価値観の転換も必要。幸福感を物の幸せから心の幸せに変える。現在のような共助が欠落した社会ではなく、自助、共助、公助がバランスした社会を目指すべき。

モーダルシフトや都市のコンパクト化を図り、3Eのバランスを考えた都市づくりを進める。これからの都市やまちづくりは、すべての機能・サービスなどを一元的に集中するのではなく、小単位から構成された多様な地域・分割構造を道路網で結ぶ分散型地域構造都市を目指すべきではないか。

*注記：当日の講演はPowerPointスライドで使って行なわれた。この報告は当方のメモガキを基に作成したものであり、講演内容のすべてを収録したのではなく、また、講演者の意図が必ずしも適切に表現されていない点もあることをお許しください。

会員の動向

新入会員の自己紹介

県央支部 上野潤一さん(事業者部門)

5月に入会しました。県央支部に入れていただき、先月から支部活動に参加しております。現在、週に3日、企業内にて環境管理や化学物質管理関連の業務をしています。EA21の審査人になってから3年目、審査オブザーバ5回をやっとクリアすることができました。

EA21のコンサルや審査の仕事に取り組んで行くため、企業各社に対するアプローチを始めた矢先、東日本大震災に見舞われました。

直接被害を受けた企業はないものの市場経済の足踏み等があり、企業の財布のヒモが堅くなり、顧客企業開拓も苦戦しています。

今後、KECAの皆様の御指導・御協力を頂きながら、EA21や地域の環境改善推進活動などに取り組んで行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

相模原支部 壁谷利秀さん(事業者部門)

専門分野：廃棄物，環境教育，市民活動

会員の活動

ECU 理事長表彰、おめでとうございます。

= 今泉(元)理事長：功労賞、高橋(弘)副理事長：功績賞 =

6月24日(金)東京都北区滝野川会館で開催された特定非営利活動法人 環境カウンセラー全国連合会(ECU)の通常総会において、今泉奉(元)理事長(現監事、西湘支部)

8月には木村新理事長の発案により有志による臨時の東日本大震災地域研修を実施致しました。

9月以降の予定をお知らせしますので予定に入れておいて下さい。(詳細は別途連絡します) 会員の皆様には事務所への訪問と共にこれらのイベントに参加願ひ、まず顔を合わせましょう。その後はメールやホームページを利用してコミュニケーションをとっていききたいと思います。

現在予定されている KECA のイベントをお知らせします。

2011年度	名称	概略内容	対象
9月17日(土)、 ~18日(日)	バリアフリーフェア 2011	講演、パネル展示と交流会 (KECA 事務所がある YWP で開催)	会員と市民
10月8日(土)	総合研修会 (横須賀・天神島自然教育園)	環境教育をテーマとした研修	会員
11月26日(土)、 ~27日(日)	総合研修会 (開催場所は検討中)	会員相互の親睦と研修(一泊)	会員

支部担当、委員会担当のイベントは別途ご連絡します。

編集後記

本号より KECA ニュースの発行責任部署が広報委員会から事務局に移りました。

それともなって紙面の構成が少し変更されています。ご感想やご意見を頂ければ幸いです。大震災被災地で行われた自主研修会と被災地ご出身の会員の報告記事で20頁になりました。研修会参加会員の報告文は本号に間に合いませんでしたが、後日E-メールニュース等の形で報告されます。

原稿執筆者の皆様が期限を守ってくださったので編集作業は非常にスムーズに行われました。原稿は Word かテキスト文書で作成するようお願いしていますがまだ Excel で作成される方がいらっしゃいます。執筆要領に沿って作成するようお願いいたします。(嶋田和夫)

発行 特定非営利活動法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)
〒231-0001 横浜市中区新港 2 - 2 - 1
横浜ワールドポーターズ 6F NPOスクエア内
理事長 木村 信幸
事務局長 河野 健三
TEL : 045-226-5822 FAX : 045-226-5825
E-Mail : 37keca@kke.biglobe.ne.jp
URL : <http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>
年会費振込先：ゆうちょ銀行 口座番号：00260-9-24711